



## 博物館の情報発信

事務局長 小林 二三男

博物館は野球の誕生から現在に至る資料約3万点を収蔵、図書は約5万冊を所蔵しています。常設展示では約2千点を紹介していて、適宜入れ替えを行っています。その他、年間を通して特別展・企画展を開催し、出来るだけ多くの資料を公開するようにしています。図書は閉架式ですが、申し込みによりすべての蔵書を閲覧することが出来ます。

これだけの資料や図書をいかに多くの皆様に見てもらえるか又、知ってもらえるか色々な形で情報を発信しています。

まずは博物館に入ってもらえるように入口前のウエルカムゲートは、遠くからでも目立つように力強さを表す「黒」と情熱の「赤」を使ってデザインされていて、大きく存在感を示しています。入口の壁面は、全面に躍動感あふれる選手達をモチーフにしたレリーフがはめ込まれ、期待感を膨らませます。

館内では、毎年内容を変えたパンフレットを入館者へ配布しています。日本野球の歴史、歴史を追った数々の資料の写真、殿堂入りの人々の紹介など情報満載のパンフレットです。表紙を飾るのは日本野球を代表する名選手の現役時代の勇姿で、2006年版は元西鉄ライオンズ稲尾投手です。

刊行物としてハンドブックがあり、殿堂入りの方ひとり一人の紹介を中心に野球殿堂の解説をしています。2007年春には5年ぶりに内容を一新した改訂版を出版致します。



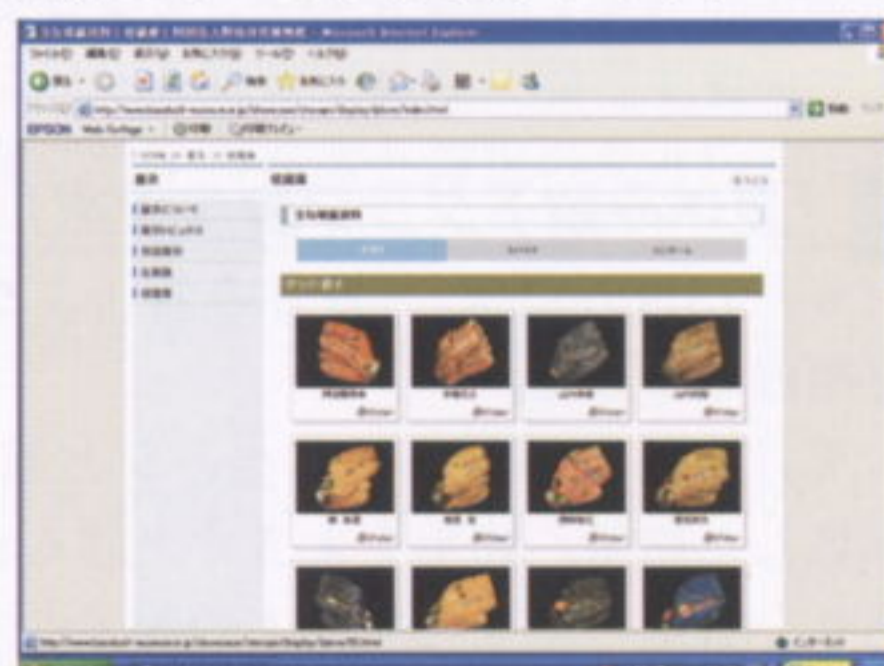
今、手に取っているこのニュースレターは季刊で発行して、博物館の旬をお届けしています。

今年の夏からはインフォアクティブというものが活躍しています。入口のガラス面に内側から外に向かって40インチのモニターが館内の様子を映しています。博物館の前を通る人に、中はどうなっているのか、何を展示しているのかが解るように刻々と画面が切り替わっています。写真と文字情報と動く帯情報が一画面で表示することも可能ですし、瞬時に切り替えも出来るので、何枚ものポスターの代わりに務めているようなものです。

HPでは常に新しい情報の提供とコンテンツの充実を心掛けており、大勢のお客様に利用してもらっています。昨年度は300万ページビュー(対前年170%)にも達しました。特に、殿堂入りの記者発表やWBC優勝特別展示の時にはアクセスが急増していました。

8月からはフォトアーカイブスとして、日米の名選手の使用したユニホーム・スパイク・グラブを各50点ずつ公開しています。11月にはバットも公開を予定していて、その後も随時アイテムを増やし、出来るだけ多くの資料を公開する予定です。

来館する、しないに関わらず博物館をもっと知ってもらう為、今後も積極的に情報を発信してまいります。



当館ホームページの「展示」→「収蔵庫」  
→「主な収蔵資料」でご覧になれます。



## 夏休みイベントのご報告

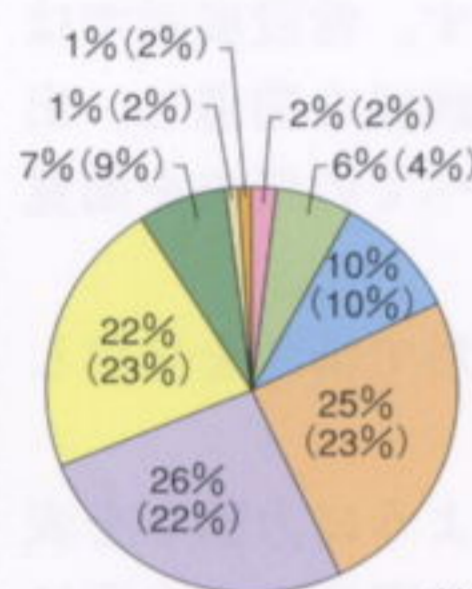
### 「野球で自由研究！ 野球の国語・算数・理科・社会」

7月20日(木)～9月3日(日)まで図書室などで、小・中学生を対象に自由研究のテーマを提供する『野球で自由研究！ 野球の国語・算数・理科・社会』を行いました。

国語では正岡子規の俳句・短歌、戦争中の野球用語など、算数では長さや長さの単位、率の計算など、理科ではバットの木の特徴、軟式ボールの反発力など、社会では野球の歴史や用具ができるまで、プロ野球・大リーグの本拠地球場、WBC出場国の面積や人口といった基礎データを紹介するなど、野球に関する自由研究のテーマとして提供しました。特に用具については実物のグラブ、バット、ボールに自由に触れるコーナーを設置しました。



学年別の利用者の割合(グラフ1) 学年別主な自由研究のテーマ



(表1) 期間中は約12,000人余りの方が図書室でさまざまな用具に触れるなどの体験をし、235人(去年は113人)の小・中学生が自由研究のための調査・研究をおこないました。学年別の内訳では、小学校4・5・6年生だけで約75%を占めています。また今年の特徴は小学校2年生が増加し、中学生は全体の10%未満となり去年の13%を下回り、自由研究を行う学年が今までの高学年から中・低学年になってきました(グラフ1)。

	国語	算数	理科	社会	そのほか
小1	0	0	0	5	0
小2	2	0	2	13	1
小3	3	3	1	20	2
小4	11	17	2	47	4
小5	14	25	4	48	2
小6	25	18	7	37	4
中1	3	1	3	14	1
中2	0	0	0	2	1
中3	0	0	0	1	1
合計	58	64	19	187	16

( )内は昨年 (複数を選ぶ場合があり、合計は235を超える)

テーマ別では野球用具ができるまでや野球の歴史を含んだ「社会」を、235人中187人が選びました(表1)。また、本拠地球場の場所をあらわした地図に興味を持った子どもたちも多く、保護者の方から同じものが作れないかといった質問も多くありました。

今回の『野球で自由研究！ 野球の国語・算数・理科・社会』で野球を通じて、学校の教科にも興味を持ってもらえたと思います。また来年も、野球を題材にして低学年の子供たちにも楽しく、わかりやすい自由研究ができるような夏休みのイベントを考えたいと思います。

### 「バット製作実演」

8月11日(金)、12日(土)に、野球殿堂ホールにてミズノテクニクス渡邊氏による「バット製作実演」を開催しました。



各回とも50～60人の見学者を集め盛況となり、特に開催情報を知ったうえで、自由研究のテーマとして取り上げるためという目的を持ったお客様が多数見受けられました。渡邊クラフトマンは、そのようなお客様からの質問に丁寧な対応をさせていただきました。

来年以降も夏休み・お盆の時期に、野球ファンになりたての小学生や、これから野球を始めようとしている小学生にさらに興味を持っていただき、さらに野球を好きになってもらえるようなイベントを実施したいと考えています。

### 「夏休み親子グラブ製作教室」

8月13日(日)には、「夏休み親子グラブ製作教室」を開催しました。



7月中旬に当館ホームページと館内で参加者を募集した結果、昨年を大きく上回る160組の応募があり、抽選の結果12組24人の親子が参加しました。

各組ともグラブの紐通しをミズノ(株)の御園氏、澤氏、宮本氏、エスポートミズノスタッフ2名の指導員に教わりながら約2時間で完成させ、「自分で作ったグラブ」をお持ち帰りいただきました。



## 殿堂入りの人々を語る (13)

### 父の事

伊丹 滋典 (伊丹 安広氏 長男)



1978年殿堂入り  
伊丹 安広氏レリーフ

父は軍人だった祖父の善通寺から佐賀への転任に伴い、中学3年時に丸亀中学から佐賀中学（今の佐賀西高校）に転校した。当時の佐賀中学は陸・海軍を指向して、士官学校に進まれる学生が少なくなかったが、父は軍刀ならぬ野球のバットに親しみを覚え、生涯を野球に捧げるような一生を送ることとなった。

当時、野球では無名校に等しかった佐賀中学から早稲田大学に進み、何のためらいもなく野球部に身を投じた。そこで日本の野球の父と言われる安部磯雄先生、学生野球の骨格を築かれた飛田 穂洲先生と接する機会を得たことが、労苦も多かったが幸せ極まる野球人生を送れることになった要因であったと考える。

早稲田大学野球部に入部後の父は、大正15年春季に首位打者となる幸運に恵まれた。翌昭和2年春には第5回渡米メンバーの一員に選ばれ、米大陸の西部、北部から東部と広く転戦し、34戦22勝12敗の好成績を収めるといふ貴重な体験をしている。昭和4年度には主将に選出され、秋季リーグ戦で早慶両校が無敗で相目見え1勝1敗の後3回戦を制して優勝し、摂政賜杯を心酔するリーグ顧問職にあった安部先生の手から授与されている。卒業後も生命保険会社に勤める傍ら、都市対抗野球戦で優勝したり、六大学審判部員に任命されたりと、学生野球との深い関わりが続いた。更に昭和15年春季から母校早稲田大学野球部の監督という大役を仰せつかったが、翌16年に太平洋戦争が勃発し、敵国スポーツの指導者としての労苦が始まる結果となった。早朝に出勤して午前中勤務し、戸塚球場での練習を終えた後再度会社に戻ることもしばしばで、言うまでもなく日曜も祭日も無い無休の生活となった。昭和18年秋には野球活動の一切に禁止の断が下り、悪夢のような学徒出陣という事態を迎えるに到った。苦楽を共にした球児の戦死の報を受けた折の父の悲嘆に暮れる姿は、10歳の少年だった私の脳裏に焼き付いた。野球を禁じられてからの父は、休日と、時には出勤前の早朝にも、バットを鋤に持ち替え農作業に励み、庭一面を狭いながらも見事な畑に変えた。畑からは一年を通じ、当時の八百屋の店先以上に豊富な収穫があった。

大戦が終わって後の父の立ち直りは早く、企画した全早慶戦が、神宮球場の第一戦を皮切りに各地で実現した際の父の喜びは大層なものだった。戦争という大きな障害はあったが、父の野球に対する情念は益々盛んなものとなり、片田舎の小さな学校からの要請にも事情の許す限り自ら足を運び、学生野球の復興と普及に努力を傾注した。父は、自分は野球に培われた人間と自覚し、恩返しのために人生の後半を生きていたという感さえる。

冒頭から記して来たように、父の日常生活は、長い間休日の無いようなものであった為、私と接する時間は物理的に非常に制約されていた。然し、父の生き様と人生観から、私は多くのものを学んだ。それは勝利せんとする<sup>こうまい</sup>高邁な理想と情熱と努力であり、自らの役割を全うしようとする使命感と責任感であり、過程と結果を顧みての反省であり、懸命に努力する同僚の失策に対する寛容であり、強者に対し挑戦する気力であり、ともに戦う仲間との連帯感であり、又恩師、先輩に対する感謝と報恩の念といったものなど等である。父は晩年18年間に亘り明治神宮外苑に奉職し、日本の野球界全体の発展のために精根を尽くしたが、若し何らかの成果があったとするならば、父を厚く信任下さった、甘露寺受長、伊達巽両宮司のお陰に他ならない。

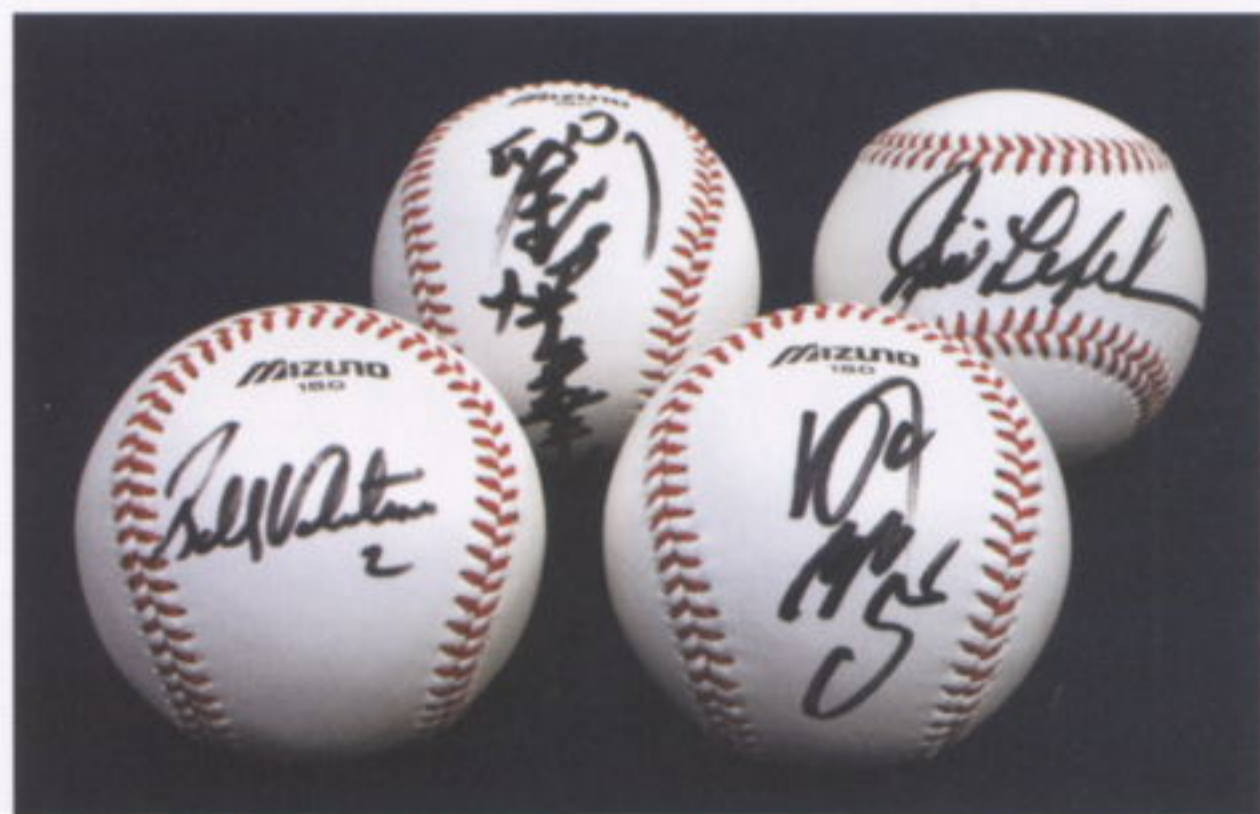
父は笑顔も渋面も似合う男であったが、面前での禁句は『忙しくて出来ない』であった。時の立つのは早いもので、この10月に30年忌を迎える。

終わりに佐賀西高等学校、早稲田大学並びに明治神宮外苑の皆様を始め、父の生前にご指導、ご厚誼を頂いた皆様に深甚なる感謝の意を表させて頂きたい。



もの  
知ってほしいこんな資料(57)

「KONAMI CUP アジアシリーズ2005」4監督のサインボール



今年も11月に東京ドームで、中国（CBA）、中華台北（CPBL）、韓国（KBO）、日本（NPB）の4つのプロ野球の優勝チームが集まり、アジアチャンピオンを決定する「KONAMI CUP アジアシリーズ2006」が開催されます。

昨年開催された第1回大会では、CBA代表チャイナ・スターズ（特例としてリーグ選抜チーム）、CPBL代表興農ブルズ、KBO代表サムスンライオンズ、NPB代表千葉ロッテマリーンズが出場。総当りのリーグ戦の結果、3連勝で1位の千葉ロッテと、2勝1敗で2位のサムスンによる決勝戦が行われ、千葉ロッテがサムスンを5-3でやぶり初代アジア

王者に輝きました。今回ご紹介するのは、この第1回大会「KONAMI CUP アジアシリーズ2005」に出場した4チームの監督のサインボールです。

CBA代表チャイナ・スターズのジム・ラフィーバー監督（写真の後列右）は、ドジャースを経て73～76年にロッテ・オリオンズでプレーし、74年のロッテ日本一に貢献。マリナーズなどで監督を務め、中国にプロリーグが誕生した2002年の9月、代表チーム監督に就任しました。今大会でもチャイナ・スターズを指揮します。

CPBL代表興農ブルズの劉 榮華監督（後列左）は04、05年とCPBLシリーズを連覇。今期は前後期の通算勝率3位でプレーオフに進出しましたが、同2位の統一獅に敗れました。

KBO代表サムスンライオンズの宣 銅烈監督（前列右）は、85年へテに入団し7年連続防御率1位など韓国球界最高の投手として活躍、日本でも中日ドラゴンズの守護神として活躍しました。05年就任1年目でサムスンをKBO優勝に導き、今年もシーズン勝率1位で韓国シリーズに進出しています。

NPB代表千葉ロッテマリーンズのボビー・バレンタイン監督（前列左）は、レンジャーズの監督を経て95年に千葉ロッテ監督に就任し2位に、メッツ時代の2000年にはナ・リーグ優勝監督となりました。04年に再び千葉ロッテ監督に就任、05年には千葉ロッテを日本一とアジアチャンピオンに導きました。

これらのサインボールは、記念すべき第1回大会ということで、大会本部を通じて4監督に依頼し、05年11月12日にそろってご寄贈いただきました。

当博物館では大会会期中に関連展示を行う一方、4監督のサインボールをはじめ、各試合始球式使用ボール、CBA胡建国主席のご来館記念サインボールなどを収集しました。今大会でも資料収集を行い、開催中の企画展「アジアの野球・世界の野球展」に随時追加して展示する予定で、当館の展示でもアジアシリーズの歴史を積み重ねていければと思います。

学芸員 関口 貴広

**企画展 「アジアの野球・世界の野球展」**

会 期 2006年10月3日(火)～12月3日(日)  
会 場 野球体育博物館 企画展示室

第1回WBC優勝という快挙から始まった2006年ですが、WBC以外にも様々な国際大会、国際試合が開催され、それぞれの日本代表が健闘しています。今回の企画展では、会期中東京ドームで開催される「KONAMI CUP アジアシリーズ2006」をはじめ、日米野球や、8月に開催された世界大学選手権、女子W杯、少年野球などの国際大会をご紹介します。

なお、本展では会期当初より10月15日まで、アジアシリーズの優勝トロフィー「KONAMI CUP」を展示していましたが、現在はCPBLシリーズ等での展示のため出張中です。このトロフィーは11月12日の決勝後、優勝チームに贈呈されます。





## コラム／博覧・博楽 (20)



## 「プロ野球初年度の生き証人前川八郎さん」

高井 正秀 (野球体育博物館維持会員)

令夫人の幾代さんが私と同郷（兵庫県宍粟市）というご縁により埼玉県八潮市の前川 八郎さん宅を訪問したのは2年前の10月のことである。通された部屋にはテレビ、カレンダー、最新の書籍を含む愛読書の本棚があり、そのお元気さ、知的好奇心に脱帽した覚えがある。その後もご次男峻氏（元・国学院大学－日産自動車選手）のご好意に甘えて厚誼を頂戴している。

本年は1936（昭和11）年にプロ野球公式戦が始まってちょうど70年である。この最初のシーズン、首位に並んだ巨人とタイガースが12月9日から3日間、現在では完全なシーズンオフの時期に竣工間もない洲崎球場で優勝決定戦を行った。馬肉による治療を受けながらの沢村の3連投、その沢村のドロップ（落ちるカーブ）をスタンド上段まで運び、ワンバウンドした打球が場外へ弾んだというタイガース景浦の豪快なスリーランホームランなど魅力満点のこの3連戦は大学野球全盛の中で日本プロ野球の礎を築いたとされる。

この3連戦にクリーンアップとして打棒を揮い、沢村が投げない時は投手として（第2戦リリーフ、第3戦先発）猛打タイガースに対峙し、巨人初優勝に貢献したのが前川 八郎選手である。

「白石（敏男、後に勝巳）、筒井（修）と私の3人が特に藤本（定義）監督のノックの餌食となった。」  
「私は投手しかしたことがなく、この時初めて三塁手をした。」  
「身体中アザや傷だらけになったが監督はボールから目を離すな、ボールが近づいて来ると自然に手が前へ出るものだと言い放ち、手加減することはなかった。」

世に言う夏季キャンプ「群馬県茂林寺へド練習」でのエピソードである。白石、筒井両選手はその春に旧制中学を卒業したばかり、元気盛りの少年であり元々内野手であった。シーズン途中の6月に藤本監督と共に東京鉄道管理局から入団して来た大学出の前川青年は言わば人身御供であった。茂林寺は球場とは名ばかり小石だらけであり、見守る観衆など一人もいなかったという。発足したばかりのプロ野球にはその程度の資金的余裕と人気しかなかったのである。主力選手退団で弱体化しチームワークが乱れ勝ちであった巨人はこの猛特訓で甦り、実力的には上と見られていたタイガースと名勝負を展開した。これらの死闘により、真摯な職業野球（当時の呼称）の存在は広く社会に認知され始めた。

「沢村ほどユニフォーム姿が似合う選手はいない。」  
「あれだけの投手はその後も出ていない。真っ直ぐとドロップを真っ向から投げ込み、ほとんど打たれることがなかった。」

その沢村と前川さん、やがてスタルヒンも台頭して来る巨人投手陣とタイガース強力打線の対決はプロ野球草創期の金看板であった。神宮の花形選手（水原、三原、菊田、田部、若林、景浦等）のプロ入りと相俟って、大学（国学院）できちんと教養を身に着けた前川さんの存在は恐らくプロ野球の社会的地位を大いに高めたに違いない。現役引退後の転身先は旧制中学の国語教師であった。晩年は巨人スカウト部長を退職した後、東京・堀越学園の教師を73歳まで勤めた。

「駒苦の田中君には豊かな将来性を感じた。ただ自分が小柄だったせいか、いつの間にか早実・斎藤君に肩入れをして見ていた。」

94歳を迎えた今夏も高校野球決勝戦をテレビ観戦で楽しんだ。

「プロ野球のエースでさえローテーションで投げない日の方が多くなった中、炎天下の甲子園で高校生が軽々と連投したのには感動した。」

70年前の苦勞があればこそ現在の繁栄がある。今やプロ野球初年度を知るほとんど唯一の選手とされた前川さん、いつまでもお達者でいてください。



### こんにちは図書室です



今回は、韓国プロ野球に続き（'06.4月号）、台湾のプロ野球の球団変遷図についてまとめました。台湾プロ野球は1990年に1リーグ「中華職業棒球連盟」（CPBL）4チームでスタートしました。その後1997年「台湾職業棒球大連盟」（TML）が発足し、2つのプロ野球リーグとなりました。2003年にはこの2つのリーグが1つになり、「中華職業棒球大連盟」（CPBL）として、1リーグ6チームで試合を行っています。

司書 山根 礼子

#### CPBL

年度		シーズン優勝	シリーズ優勝	試合数	球団変遷図									
1990	前期	三商	味全龍	90	兄弟象	統一獅	味全龍	三商虎	俊國熊	興農熊	時報鷹	和信鯨	誠泰太陽	第一金剛
	後期	味全												
1991	前期	味全	統一獅	90										
	後期	統一												
1992	前期	兄弟	兄弟象	90										
	後期	兄弟												
1993	前期	兄弟	兄弟象	90										
	後期	統一												
1994	前期	兄弟	兄弟象	90										
	後期	兄弟												
1995	前期	統一	統一獅	100										
	後期	統一												
1996	前期	統一	統一獅	100										
	後期	味全												
1997	前期	時報	味全龍	96										
	後期	味全												
1998	1シーズン制	興農	味全龍	105										
1999	1シーズン制	和信	味全龍	※100										
2000	前期	興農	統一獅	90										
	後期	統一												
2001	前期	統一	兄弟象	90										
	後期	兄弟												
2002	前期	兄弟	兄弟象	90										
	後期	兄弟												
2003	前期	興農	兄弟象	100										
	後期	兄弟												
2004	前期	統一	興農牛	100										
	後期	興農												
2005	前期	誠泰	興農牛	100										
	後期	興農												
2006	前期	La New	☆	100										
	後期	La New												

☆10月21日～10月29日シリーズ開催

#### TML

年度		シーズン優勝	台湾シリーズ優勝	試合数	球団変遷図			
1997	1シーズン制	勇士	勇士	96	太陽	金剛	勇士	雷公
1998	1シーズン制	雷公	太陽	108				
1999	1シーズン制	太陽	金剛	※84				
2000	1シーズン制	太陽	太陽	84				
2001	1シーズン制	金剛	金剛	60				
2002	1シーズン制	金剛	金剛	72				

※大地震のため（9月22日）、シーズン途中で打ち切り



《日米野球博物館提携プログラム始まる！》

クーパースタウンの野球博物館と東京の野球博物館の間で、お互いの維持会員が無料で相手方の野球博物館に入場できるようにする協定が結ばれ、この10月1日から実施されることになりました。期間は2007年12月31日までですが、それ以後も継続されることを期待しています。

年間会費を支払ってクーパースタウンの野球博物館を支援している人（個人）は、2万人に達しています。日本の場合は個人会員とジュニア会員が計約100名、法人会員が約70社です。

具体的には日本の野球博物館の維持会員がメンバーズカードを持参してクーパースタウンを訪問した時には入場料5ドル～14.5ドルが無料になります。

逆にクーパースタウンの野球博物館維持会員がそのメンバーズカードを持参して日本の野球博物館を訪問した場合は200円または400円の入場料が無料になります。

ささやかな試みですが、二つの野球殿堂博物館の文化的交流の次へのステップになることを期待しています。

財団法人 野球体育博物館 事務局長 小林 二三男



アメリカ野球博物館入口風景

【2006年度の維持会員を募集しています】

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員の特典

- (1) 当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
- (2) 無料で博物館に入館できるメンバーズカードを発行します。
- (3) アメリカの野球博物館にも無料で入館できます。
- (4) 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
- (5) イベント情報などを優先的にご案内します。
- (6) 博物館で販売している商品が10%引きになります。

\*新個人会員には上記の特典のほか「The Baseball Hall of Fame & Museum 2002 ～人で振り返る野球ハンドブック～」(2003年から2006年までの小冊子つき)を進呈します。

\*新ジュニア会員には上記の特典のほか「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を進呈します。

2. 会員の種類と会費

年会費 (4月～翌年3月迄)

法人会員 1口 10万円

個人会員 1口 1万円

ジュニア会員 (小・中学生) 2,000円

ご入会月により、初年度年会費の割引があります。

ご入会月	4月～9月	10月～12月	1月～3月
維持会費 (個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の「入会申込書」に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、博物館までご連絡ください。

②「入会申込書」が届きしだい「払込用紙」をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 博物館 業務部 高城・竹内  
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

【理事・監事・評議員の交代】

10月2日の任期満了に伴い、現理事12名、監事2名、評議員35名に再任いただきました。また、理事を退任された古村 澄一氏の後任として、板橋 一太氏 (日本オリンピック委員会常務理事) にご就任いただきました。

今後ともよろしくお願い致します。

【2007年野球殿堂入り記者発表】

2007年度の野球殿堂入り記者発表は、2007年1月12日(金)午後3時から、館内の殿堂ホールで行う予定です。入館された方も見学できますので、ぜひお越し下さい。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日AM10時～PM6時

10月1日～2月末日AM10時～PM5時

(入館は閉館の30分前まで)

入館料 大 人 400円 (300円) ( ) は  
小・中学生 200円 (150円) 20名以上の団体

休 館 日 月曜日

(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)

年末・年始 (12月29日～1月1日)

《11月・12月・1月の休館日》

11月 6日・13日・20日・27日

12月 4日・11日・18日・25日・29日・30日・31日

1月 1日・15日・22日・29日

\*年末年始は12月29日～1月1日までお休みです。

● 編集後記

11月に入っても日米野球やアジアシリーズなど、まだまだ野球シーズンは続き楽しみがいっぱいです。

Newsletter Vol.16 / No.3

2006年10月25日発行

編集・発行 財団法人 野球体育博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

http://www.baseball-museum.or.jp/

定 価 100円



Vol.16 / No.3



## リレー随筆(26)

田村 大五 (特別表彰委員会委員)

今年、野球殿堂入りした、かつてのパ・リーグのホームラン王、門田 博光さんと、この夏から秋にかけて何度も京都のホテルで会い、会うたびに夜遅くまで話を聞く機会をもった。

門田さんは昭和22年(1947年)生まれ。日本が戦後の混乱期を脱し、右肩上りの成長期に入った経済社会の担い手となり、いま定年を迎えるということで話題になっている、いわゆる「団塊の世代」。野球用具などないし、あってもお金がなくて買えなかった少年時代、テレビがあったのは近所に一軒だけでそこへ大人も子供も集まってプロ野球を観戦した時代の話は、昨年評判になった映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の野球少年版といった趣で、一時代前の「パ・リーグのホームラン王」の原点を見た思いで興味津々だったが、門田さんの野球人生の思い出話のハイライトは、なんとといっても、「再起不能」とまでいわれたアキレス腱断裂からのみごとな復活劇と、あの王貞治さんさえ打てなかった「40歳での44本塁打」だ。

その話だけでも二日二晩に及んだが、話の底に流れ続けたのは「いまと違って私たちがプレーしていた頃のパ・リーグのスタンドはいつもガラガラで…」というような“悔みブシ”だった。「スポーツ紙はセ・リーグの人気球団の話は大きく派手にとりあげるが、私たちのことは…」。それがバネになった。「それならとことん自分のワザを磨こう」と。その成果が、門田さんの数々の打撃記録となって実るのだが、ハンディを乗り越えたさまざまな話の中で印象的だったのは、いまと違って恵まれない練習環境の中で、自分をどう鍛えたかという話だった。用具から設備、なにかからなにまで、恵まれているいまからは考えられないほどお粗末なものだった。そういう話の中で、私が、特にいまの若い打者たちに伝え残しておかなければ…と思ったのは、「バッティング投手」の話だ。

いまは、その仕事専門の、左投手あり右投手あり、オーバースローあり、サイドスローあり、相手チームの投手に擬して投げしてくれる投手がズラリ揃っている。しかも「試合前の打者が気持ちよく打ってくれるように配慮して」投げしてくれる人ばかりだ。しかし、門田さんの若い頃は、「打撃投手」といえば、ひとりかふたり。「疲れていて、見ていても痛々しかった」先輩投手だ。主力打者に投げ続けヘトヘトになって、若い打者相手になると投げやりになって意地悪いヒネクレ球を投げってくる。「試合中の相手投手の球より打ちづらいヒネクレ球」だ。当時の若い打者は、試合前の打撃練習では5、6球しか打たせてもらえない。なかなかバットの芯でとらえきれない。なかなかバットの芯でとらえきれないヒネクレ球の5、6球に対して毎日、工夫して対処するしかない。「ワン・スイングが命」だった。

しかし、あとになって門田さんは思う。「あの頃の意地悪なヒネクレ球相手に苦勞を続けていたことが、試合で数多くの投手相手のバッティングに生きてきたのではないか。至れり尽くせりの練習環境だけがいいものとは限らないんだよねえ」。

豪華なトレーニング・マシンも完備している室内練習場から手とり足とりの親切なコーチたちまで充実しきった練習環境の中にいる若者たちは、本当に幸福なのだろうか。